

⑤ 大学からの情報提供のニーズと現状

保護者がほしい情報は「卒業生の詳細な就職率、就職先」。
5割強の保護者が情報提供はあったが十分ではないと感じている。

Q

お子様に通っている大学から提供してほしいと思う情報はどれですか。(複数回答)

Q

お子様に通っている大学から今まで十分な情報が提供されてきましたか。

図5-1 大学から提供してほしいと思う情報(全体・父母別)

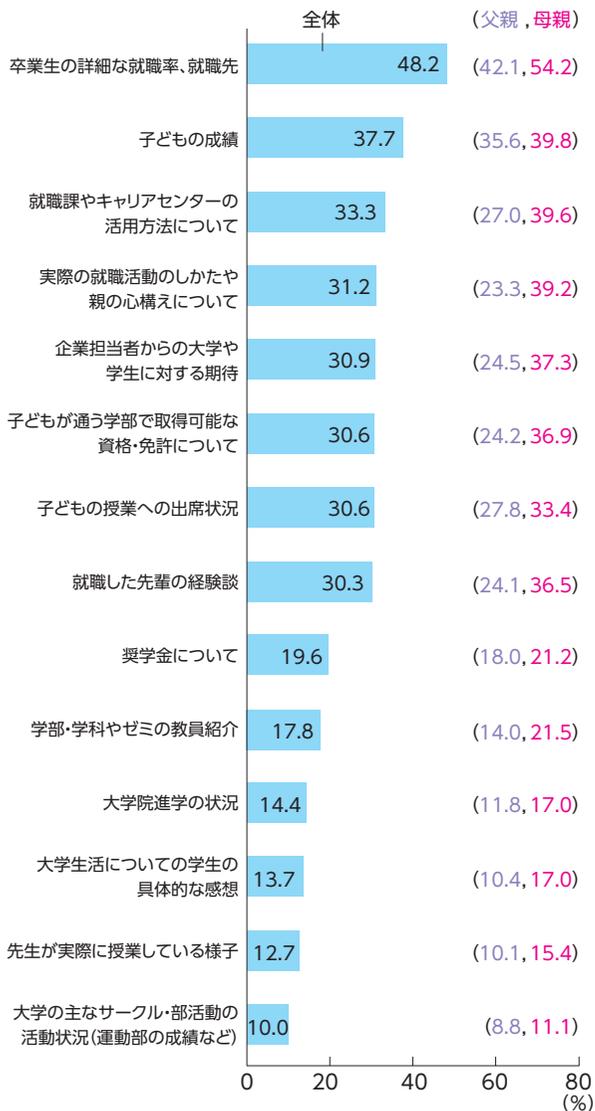


図5-2 大学からの情報提供(全体)



注) サンプル数は図5-1・5-2とも6,000名。うち父親3,000名、母親3,000名。

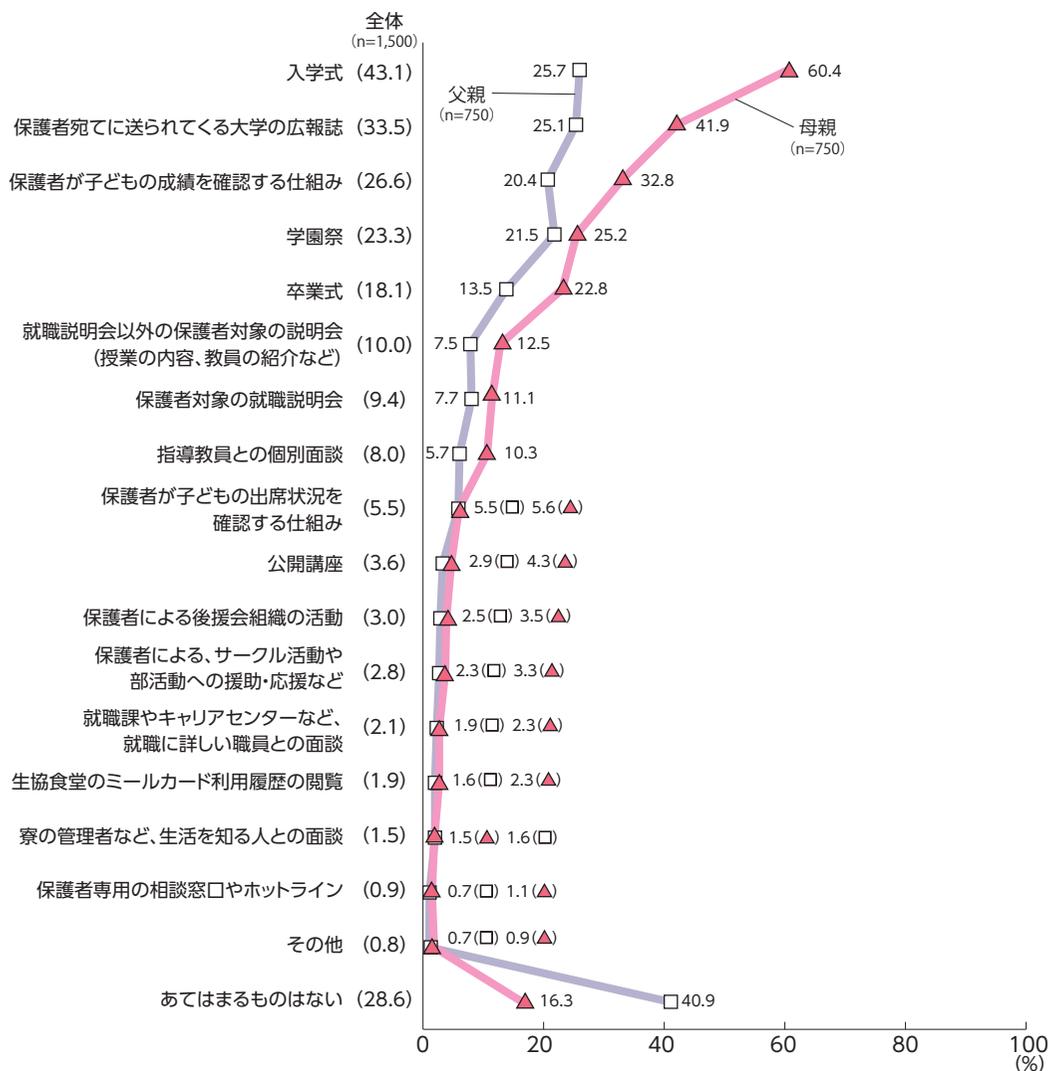
⑥ 保護者が利用・参加している大学のサービス・イベント

保護者対象の説明会の利用は、「就職説明会」「就職説明会以外の説明会」のいずれも1割程度。

Q

次にあげる大学の取り組みのなかで、実際にあなたご自身が参加したり利用したりしたものがあれば、全てお選びください。

図6-1 保護者が参加・利用した大学サービス・イベント（4年生の保護者・父母別）



父母別にみると、母親の方が大学のサービス・イベントの利用・参加率が高い。「入学式」には母親の6割が出席し、「学園祭」には母親の4人に1人(25.2%)が参加している。一方、父親の4割は「あてはまるものはない」と回答しており、大学との直接的な接点もっていないようである。

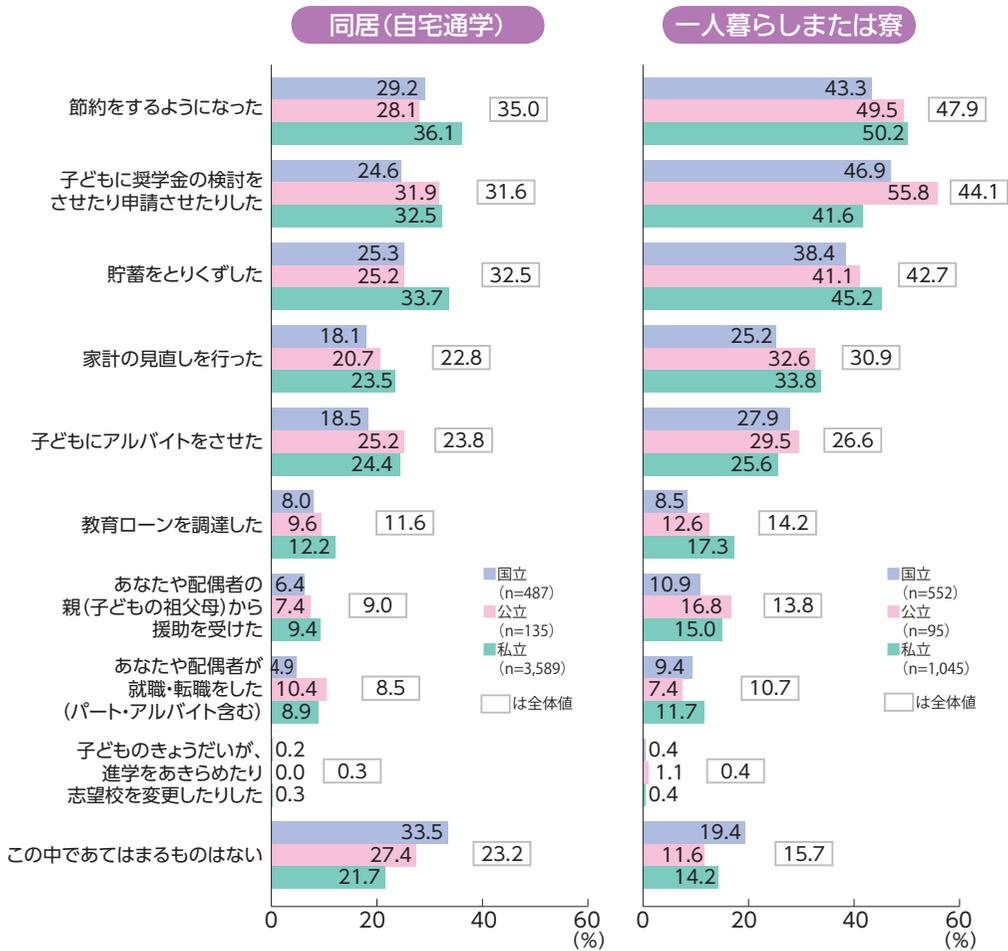
⑦ 経済的負担の状況

子どもに奨学金の検討または申請をさせたのは、子どもが一人暮らしまたは寮生活をしている家庭で5割弱、自宅通学の家庭で3割。

Q

お子様の大学進学が決まってから今までの間に、お子様の学費や生活費を工面するためにあなたやご家族は次のようなことをしましたか。あてはまるものを全て選んでください。

図7-1 子どもの大学進学決定後の学費・生活費の工面(子どもの居住形態別×設置者別)



経済的負担の状況を子どもの居住形態別にみると、「同居」に比べて、子どもが「一人暮らしまたは寮」の方が「節約をするようになった」「子どもに奨学金の検討をさせたり申請させたりした」「貯蓄をとりくずした」が10ポイント以上高い。子どもの大学の設置者別にみると、国立大学の負担が若干少なくなっている項目が多く、「この中であてはまるものはない」の選択率をみても、国立大学で「同居」の場合に33.5%と最も高く、お金の工面の必要性のない家庭が相対的に多いものと思われる。